説教要旨「汚れた霊が帰ってくる」

ルカによる福音書　１１章２４～２６節
ヨハネの手紙Ⅰ　４章１～６節

汚れた霊を追い出したからと言って安心していたら、もっと悪い例を引き連れて汚れた霊が帰ってくる。前よりもっと悪い状態に陥ってしまうという喩えをイエス様は話されました。それはわたしたちに当てはめてみれば、悪霊の支配から解放され、救いにあずかったわたしたちが、その後どう生きていくのかという問題です。

悪霊に「わが家」と呼ばれているのがわたしたちの姿です。最もくつろげる、安心できる、思い通りになる場所なのです。だから一旦は追い出されても、隙あらば戻って来ようとしているのです。平行記事であるマタイ福音書（１２章４４節）では、汚れた霊が戻ってきたところ、そこは空き家になっていたことが記されています。自分はしっかり管理していて、空き家になんかしてないよと思うかもしれません。けれどもわたしたちが自分で家を守っている状態というのは、悪霊にとってはなんのセキュリティーもしていない空き家と変わらないのです。

悪霊に押し入られないためにはどうすればよいのか。答えははっきりしています。自分で守れないのだから、どんな悪霊をも退けられる方、イエス様に主人となっていただいて、この家を守っていただくしかないのです。自分はもう救われたのだから、もはやイエス様も神様も必要ないなどと考え、自分自身の主人として自分の力だけで生きていけると思うとき、汚れた霊が戻ってきて占拠され、以前よりも悪い状態へと陥ってしまうのです。大切なことは、自分という家をイエス様に明け渡すことです。イエス様にこそ家の主人となっていただくことなのです。

自分の正しさを掲げるのではなく、イエス・キリストの正しさを掲げること。自分自身をイエス様に明け渡して、イエス様を主人として迎え入れたところにこそ、互いに愛し合う道が示されます。イエス様を心の内に迎え入れ、イエス様にそこに住んでいただき、自分という家を悪霊から守っていただく。そこにこそ、悪霊の支配から解放された、本当に幸いな歩みが与えられるのです。

（２０２３・３・５　説教者：稲垣真実）